

# 千葉県感染症発生動向調査情報

2019年 第14週 (4/1-4/7) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	14週	13週	12週	11週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	27
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	4/1-4/7	3/25-3/31	3/18-3/24	3/11-3/17	3/25-3/31
			14週	13週	12週	11週	13週
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	3 0.17	3 0.17	7 0.39	36 0.27
	咽頭結膜熱		2 0.11	1 0.06	3 0.17	7 0.39	17 0.13
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	56 3.11	42 2.33	57 3.17	63 3.50	325 2.44
	感染性胃腸炎		106 5.89	83 4.61	88 4.89	111 6.17	553 4.16
	水痘		4 0.22	12 0.67	19 1.06	12 0.67	65 0.49
	手足口病		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.06	5 0.04
	伝染性紅斑	○	12 0.67	8 0.44	14 0.78	26 1.44	88 0.66
	突発性発しん		10 0.56	13 0.72	14 0.78	9 0.50	54 0.41
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.02
	流行性耳下腺炎		2 0.11	2 0.11	1 0.06	2 0.11	6 0.05
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		27 0.96	24 0.86	29 1.04	37 1.37	201 0.95
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		1 0.20	2 0.40	2 0.40	0 0.00	13 0.37
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(12件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	病原体の検出等	梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出
結核	男性	70歳代	病原体等の検出等	播種性クリプトコックス症	女性	70歳代	病原体の分離・同定等
結核	男性	70歳代	IGRA検査	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子等の検出
E型肝炎	男性	50歳代	血清IgA抗体の検出	百日咳	男性	40歳代	抗体の検出
E型肝炎	女性	70歳代	血清IgA抗体の検出	百日咳	女性	10歳代	抗体の検出
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	男性	60歳代	病原体の分離・同定等	風しん	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出

\*第14週は、結核3件(43)、E型肝炎2件(3)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(3)、梅毒1件(9)、播種性クリプトコックス症1件(1)、百日咳3件(31)、風しん1件(19)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

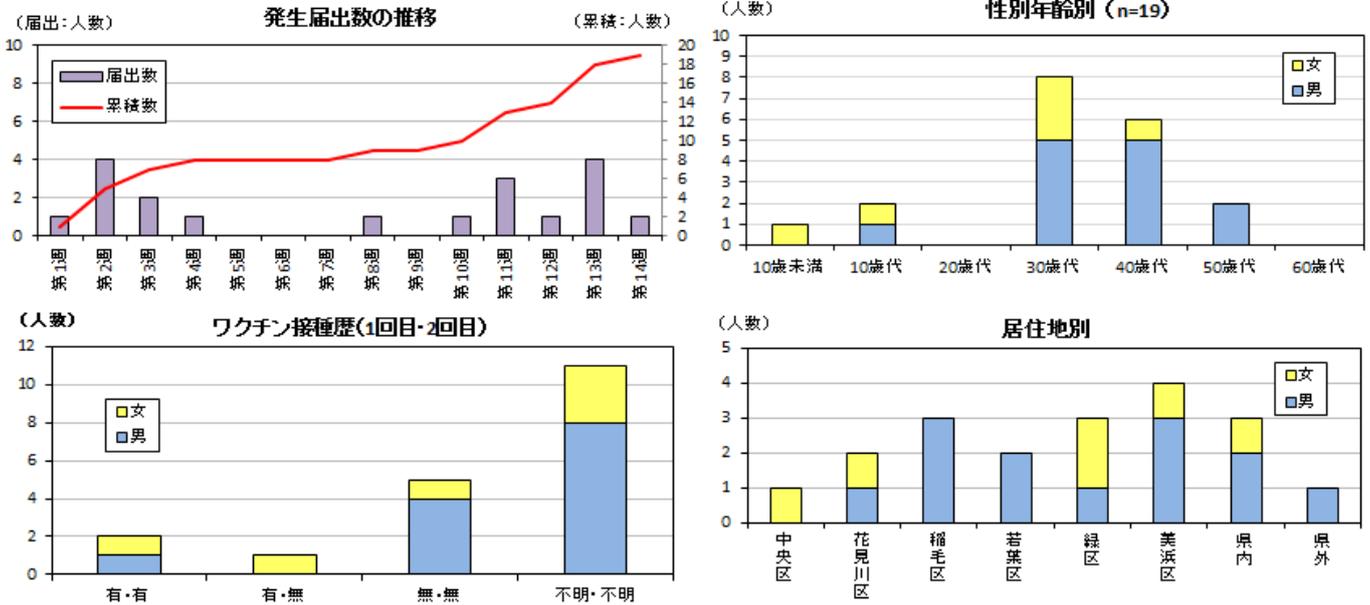
## 定点当たり報告数 第14週のコメント

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より増加し3.11となった。過去10年の同時期と比べると最多。  
 ＜伝染性紅斑＞前週より減少し0.67となった。過去10年の同時期と比べると多い。

### トピック

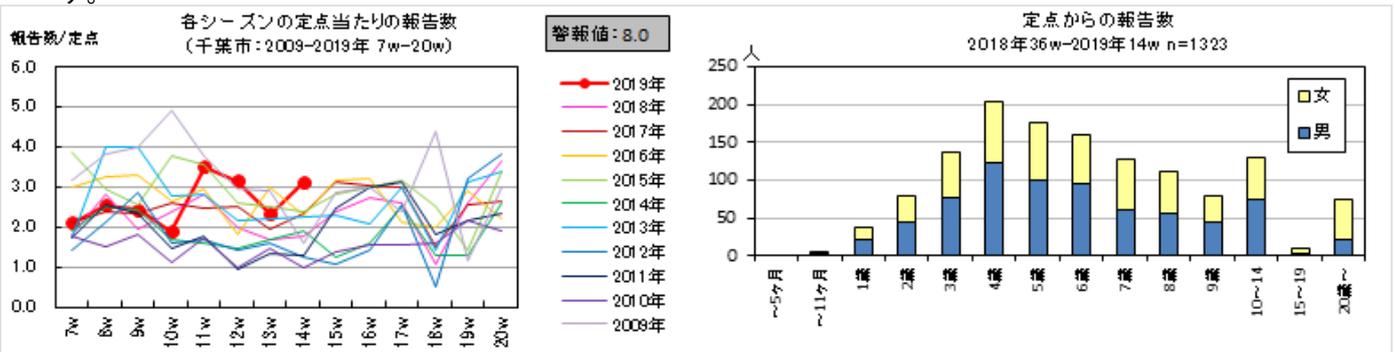
#### ＜風しん＞

全国レベルの第13週の累積報告数は1112件となり2013年に次ぐ多さとなっており、昨年の同時期と比べると200倍を上回っています。都道府県別では、東京都、神奈川県、千葉県の間で多く、関東地方で多く報告されています。千葉市では第14週に1件の発生届があり、2019年の累積報告数は19件となりました。性別では男性が68.4%（13名）、女性が31.6%（6名）となっており、年齢階級別では30歳代（42.1%：8名）、40歳代（31.6%：6名）、50歳代及び10歳代（共に10.5%：2名）の順で多く、30歳代～40歳代の男性が中心となっています。ワクチン接種歴は、無し又は不明が全体の80%を上回っています。



#### ＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの第13週の定点当たりの報告数は2.07で、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、鳥取県、新潟県、北海道の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は2.44で、全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の第14週は前週より増加し3.11となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、緑区(10.0/定点)で最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から2019年第14週までの累積報告数は1323件で、性別では男性が54.7%（724名）、女性が45.3%（599名）となっており、年齢階級別では4歳(15.3%：203名)、5歳(13.3%：176名)、6歳(12.0%：159名)の順で多くなっています。



#### ＜伝染性紅斑＞

全国レベルの第13週の定点当たりの報告数は0.50で、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、山形県、石川県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.66で、全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の第14週は前週より増加し0.67となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(1.33/定点)で最多で、同区の6歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第14週までの累積報告数は245件で、性別では男性が55.1%（135名）、女性が44.9%（110名）となっており、年齢階級別では5歳(18.4%：45名)、4歳(17.1%：42名)、6歳(15.5%：38名)の順で多くなっています。

